第貳百九拾六號　（昭和27年9月25日第三種郵便物認可）　THE MIIKE　（毎週日曜日発行）　昭和二十八年（1953）九月六日（日）

発行所
三池炭鑛労働組合
大牟田市不知火町
電話3033番
炭電528・475番
編集発行人　平島敏治
三鉱労組印刷工場

三鑛労組機関紙

首切り状を叩き返す

會社側を震え上らせた十時間

返上デモ本社を制圧

会社の暴虐なやり方に抗して、勧告期限の切れる四日決行された首切返上デモは、けだし組織初つて以来の壮絶さだつた。降りしきる雨の中午後一時からの被通告者とその家族約二千によるデモを皮切りに時限ストを終つた一番方、常一番あがり、更に夜に入ると共に二番方あがりも續々デモに参加、炭婦協もまじえて延一万二千名を越える〃怒れる組合員〃は約十時間に亘つて完全に本社を制壓、勧告書を会社幹部に叩き返した。

お父さんや兄さんの首を切らせるな　（決起大会における子供デモ隊　笹林公園にて）

この日午後一時、雨で多少危ぶまれたにもかゝわらず、鉱組本部前不知火校々庭には夫々思い思いの意匠をこらした四斗樽に勧告書を詰めたのを神こしの様にかついだ被通告者が各支部毎に續々と繰り込んで来た。中でも等身大の首無し人形を押し立てた三川支部、血塗れ四斗樽に「返上」の一札を乗せた本所支部など一際眼を惹く。集合を終つて直ちに出発、本社に向う。蛇行々進にかゝるやその勢いで一気に本社屋内になだれ込み階上所長室を中心に割れるようなデモをかけ、さしもの建物も引つくりかえらんばかり、四斗樽をデンと所長室の前に据え、その前に坐り込む。浦川、菊川両副組合長、河野書記長らが会社と懸け合い三時少し前

一、勧告書を突返すから受取れ
二、解雇理由を明示せよ
三、五日以降も就業させろ

以上三点で交渉に入る。然し川上所長以下主だつたところは逸早く姿をくらまし、残るは末吉労働課長代理、大井管理係長の二人のみ　交渉は権限の問題で引つかゝり、「所長、次長の所在を追求したが「重要会議に出席中で今居ない」「何処に居るか？」「知らん」「重要会議と云うが首切り以上に重要な問題があるか、また会議に出席中と云うなら所在がわからん筈はない」と激しく迫るも会社側あくまでも白を切つて要領を得させないので交渉を打切つて末吉課長代理共々手分けして探しに廻る。組合員は後から後から詰めかけ本社は喊声の嵐に包まれる。

遺失物として扱う
不そんな會社側の態度

四時少し前山の上クラブで服部人事部長を探し当て同道を求め、交渉再開、権限の問題を訊した後浦川副組合長「首切りは死活の問題だ、そのつもりで御答え願いたい」とぼう頭して

一、勧告書は突返すから受取つて貰いたい
二、解雇理由を明示せよ
三、被通告者を引続き就労させろ

以上三点につき会社側の回答を求めた。これに対し阿部労働課長

一、中央、地方共に組合が団交を拒否した関係で止むなく一方的措置を執らざるを得なかつた。一度勧告状を出した以上受取る訳に行かない。
二、経済解雇と云う意味以外に質の向上をはかつた。個々の理由については明示出来ぬ
三、四日午後四時を以て自動的に解雇が発効するので就労は認めない

と突つ撥ね、組合側「会社は一方的に勧告書を郵送したではないか受取りたくないから突き返すと云うのに何故受取れんか」「一度通告書を発して置きながら後で間違つていたから取り戻しに来たような事例が随所にある。こんな重要な問題に斯くもずさんな取扱いをしたと云う事実からして残り千余通も好い加減なものだと判断せざるを得ない、とにかく受取れ」と舌鋒鋭く詰め寄るが会社側言を左右にしてあくまでも拒み、しまいには「受取る訳には行かないが、皆さんがどうしても置いて行くと云うなら仕方のない話で遺失物として取扱うまでだ」（阿部課長代理）と放言、それまでに刻々と数をまし、交渉の成行を見守つていた組合員の憤激は極点に達し、会社の不誠意を鳴らす怒号と建物を取り巻く大群衆のピツピツワツショイ、ピツピツワツショイの大叫喚に包まれて凄まじい情景を描き出すうちに、この日応援デモに繰り出した大地評傘下三十余、合成東圧の同志が小宮大地評会長と共に会場に姿を現し燃え沸る憤りをこめた抗議文を読み上げ服部人事部長に手交すれば室内外はまた一しきりワツショ／＼の叫喚で闘争気勢はいやが上にも昂まる。

はたかぜの上で交渉
勧告書を受取らず
武装警官も寄りつけず

徒らに時間は経過するが激突のまゝ交渉は一歩も進展しない。窓外には降りしきる雨に打たれてズブ濡れのまゝ一万をこえる組合員、家族が結果如何と立ちつくして居る。会議室内は極度の緊迫感に包まれ浦川、菊川両副組合長、河野書記長、各支部長、被通告者代表等、交渉委員の面上には死を決した悲愴な色があり／＼と読まれる所長、次長は姿をくらましたまゝ依然足跡をつかませない。最早これ以上交渉を続けても無益と見て遂に四斗樽六個が会議室内にかつぎこまれる。通告書が卓の上に打ちまかれ「受取れ」「受取らん」の押し問答がなおも続く。最後に浦川副組合長「とに角通告書は是が非でも突き返すから受取れ、それとこんな事態を惹き起した責任は会社の一方的な措置と不誠意にあるのだからニユース・カーの上から一言組合員大衆に対し詫びをいつてもらいたい」と尻込みする会社側代表を説き伏せて舞台は一転〃はたかぜ〃のルーフ上に移るデモ隊の喚声の中に浦川副組合長マイクを通じて「通告書を返すから受取れといつても会社側はこれを拒否して居る。何故受取らぬか只今から直接皆さんにその理由を話してもらう」と服部人事部長にマイクを渡すが交渉の席上言つた事を繰返すだけでいさゝかの誠意も見られない。ルーフ上で更に交渉が初められる間デモ隊は〃はたかぜ〃を十重二十重に囲んでワツショ／＼のデモに移る。雨は一層降りしきり暮色が迫る中にぬれしよびれての交渉卅分、遂に会社側も腰を折つて「一先ずお預りする」と申出た。これを聞いたデモ隊の中から期せずして天地もどよもす大喚声がまき起る。松本支部長が〃はたかぜ〃の上からすべり落ちて負傷するという昂奮の場面も織りまぜて通告書が支部毎に取りまとめて叩き返される。次いで就労の交渉に移るが頑として応じない。四ツ暗に夜のとばりが降りた〃はたかぜ〃の上で両々譲らず激論が交される。武装警官待機報ぜられるや昂奮と緊張は極点に達し婦人達を内側に包みこんで男達の火を吐くようなデモが大きな円陣を描く　結論が得られないまゝ組合側は戦術委員会に移る。二番方上りが雨を衝いて早くも繰込んで来、ピケのかゞり火があちこちにたかれる。戦術委員会の結論として「これ以上夜を徹して交渉しても恐らく結論は出ないだろうから今回のこの盛上つた圧力をそのまゝの状態で現場に移し五日一番方以降の強制就労を強く闘い取る」という事に一先ずデモが解散されたのは午後十一時であつた。武装警官も組合員の気勢に押されてか遂に一人も姿を見せなかつた。

感想文　入選五席

家庭経済に就て

宮浦支部　山下ちえ子

私は最近家庭経済について色々と考えさせられ実行に移しつつあるものですが、どうか皆様方にも幾分なりと参考になればと思い少しく申し述べさせて戴きます。それは毎日かかさずつけていた私の家計簿がかえつて夫婦円満のもとをつくるのに役立つことになつたのであります家計簿が時代の氏神に、全く思いがけないことでした。この甘い考え方に気がかりになり深く決心し、早速実行することにいたしました　まず赤字生活は月給が少いのではなく家計について非常にルーズなところから来ているのです。月給が入れば予算なしで毎日のお菜や子供の物をどん／＼買つてしまいます。従つて半月もたつともうお塩で御飯を食べるという極端な有様もちろん家計簿などつけてはおりませんでした。そこで昨年の苦しい六十三日の闘争から家計生活をあらためて家計をモツトーとして勝ちうることが出来ました。それは第一に家計の切盛は夫婦協力ですること、主婦がいくら一生懸命になつても夫が必要以上に無駄づかいしないよう協力してくれなくては何にもなりません。夫の協力を得るとともに主婦は絶対賢であり母である責任のもとに家計を上手にすることです。第二に必ず予算をたてること。まず夫が給料を貰つて来ましたら費目別に封筒に入れ更に毎日の副食及び子供のおやつ代は十日の割にして使いすぎるのを防ぐとともに市場の買物には一日分の予算以外の金は絶対持たないこと。ちよつと不便と感ずるときもありますがこれが家計のやりくり上一番大切であると感じております。第三に衣料、家具その他の修理は出来るだけ人手を使わないこと。幸い私の家にはミシンがありますので夫の古ズボンを長男のズボンに、私の色あせた服を染めかえて長女の服にといろいろ工夫いたします。ラヂオを聞きながらミシンを踏む楽しさは私の最もうれしい一こまなのです。又買物なども上手に、出来れば衣料品なども季節の終りに買つておくようにし一ケ月の苦しみを切り抜けると翌月から苦しさが楽しさになり、借財をなくし此の後の闘争にかねてから勝抜く覚悟で今年の吾が家の家庭経済の方針を立てゝ行きたいと思つて日々を過しています。

炭労大會　對策などを決定

第廿二回中央委員會

炭労大会対策を主議題に第廿二回中央委員会は廿九日午前九時から労働会館で開催　劈頭左社田中稔男代議士並びに共産党国崎茂之氏から激励のメッセージを受け、廿四、廿五の両日ひらかれた九本臨時大会の報告（木村労働部長）企闘経過（河野書記長）大地評共闘（花園政対部長）の諸報告を宍々諒解の上議事に入る。

炭労大會對策

企闘に対する指導、統制、戦術等不備があるので厳しく批判し、より強く闘う方式の確立をはかるほか期末手当、法闘ストにおける統制問題、労協、経営社会化闘等基本的態度を討議の上、上京代議員に一任、闘争資金追加予算、積立金等金銭の問題については大衆討議にかけた上支部委員会の結論を集約して会期中に打電する。

十月以降賃闘

マーケツト・バスケツト方式を加味した新五原則並びに要求額につき真剣に討議の末これを承認決定

闘争豫算

九月九円、十月以降毎月七円（内三円は九本に還付）を河野書記長から提案　異議なくこれを承認。

スト資金積立

理念だけを先ず認め、実施時期については企闘引き去り金完了後にすると云う事で満場一致可決。

パージ復職同盟に対する協力

各人月一円宛の強制カンパにするか個人の任意カンパにするかで諮り挙手採決の結果、当初執行部からの提案通り任意カンパとする事に決定。

その他市民税還付金の問題についても原案通り承認決定、こゝで三川支部池田委員から

一、自由労組は我々の為共同闘争に起ち上つてくれた。これに応える意味で完全就労を大牟田荒尾日雇の完全就労の闘いを支持し両市長宛本中央委員会の名において善処方の要望文を手交せよ。

と動議が提案され異議なくこれを採択、更に同委員から

十月十日からウキーンで開かれる世界労運大会に三池から代表を送れ

との動議がなされ　これに対しては企闘の現況　費用その他の点から現在その余裕がないからとの理由で辞退を申出で、審議打切りとなつたが、世界自由労運を脱退して世界労運に加盟する事の是非につき種々の論議を捲き起し約一時間に亘つて討議の結果最終的にはこれまた大衆討議にかける必要ありとし上京代議員に追打ち打電する事に決定　以上で審議を終り最後に国鉄熊本支部浦委員長からのメッセージを受けて六時四十五分閉会したが、その間午後二時大地評傘下各単組執行部員約六十名と共に約一時間に亘り本社に首切り反対デモを敢行、闘い抜く決意をいやが上にも高めた。

理由を説明せよ

四山の該當者詰寄る

四山鉱の解雇該当者約五〇名は三日午前十時頃鉱長室に押しかけ首切理由の説明を求めたが安田鉱長以下幹部は不知火クラブに待避して顔を見せず、猿渡人事係長が面接したが要領を得ず、そのうち炭婦協、一般組合員、更に二番方出勤者も全員応援に詰めかけ〃クラブに押しかけろ〃とデモを行い、その間松本支部長が鉱長らと鋭意交渉した結果会社側も渋々解雇該当者のみに限り会う事を応諾、午後一時組合側松本、前川正副支部長、浦野厚生部長、本部平島編集部長、上田監事らを交え会社側安田鉱長、三副長、猿渡人事係長と対決の段取りにこぎつけた。安田鉱長「今度の人員整理は中央、地方共組合側と話合がつかないまゝ会社が一方的に行つたのでこういう事になつた」と遺憾の意を表明これに対し解雇該当者側から「基準に該当する心当りが全くないにも拘らず首切り通告を受けた、全く出鱈目だ、感情でやつたのではないか？」と解雇理由の説明を求めて鋭く追求したが会社側は何等はかばかしい返事も出来ずそのまま夜に持越し、その間一番方、二番方あがりの組合員、炭婦協約千五百名が成行如何にと詰めかけ、クラブを取り巻いて盛んなデモをかける。午後八時半に至つて安田鉱長から「基準を云えと云つても山元の鉱長にはその権限が与えられて居ないので本社に連絡の上明朝十時までに組合代表宛説明するよう努力するから」と云う事で一応当日の会見を終り引揚げた。

宮浦でも

首切理由説明せず

宮浦支部では三日の一番方に出勤した退職勧告書及び其の他の組合員の人々が、退職勧告の理由を明白にして貰いたいと繰込場でその説明を主席係員に求めたが、黙否権を行使したのでこれが解決するまでは坐込むと人事係、繰込場に坐込んだ。

組合としては事態収拾のため坑長副長と折衝をもち各個人に退職勧告を出した理由を説明する様要求会社は「宮浦独自で発表は出来ない」と交渉が長引き、繰込みが遅引するのみで早くも入坑さすべきであるとして賃金を保証し、この繰込みの遅延の責任は問わないことで折衝、会社は賃金差引、責任追求を前提とする実情調査でなく実情を一応調査し後刻回答したいとのべ、即時回答をせまる組合と後刻回答をするという会社と意見が対立し、結果に於ては「会社は万全の努力をする」「理由説明は四日四時以前になす」ことで諒解、各々作業についた。

間違つて首切つた

勧告書を返して下さい

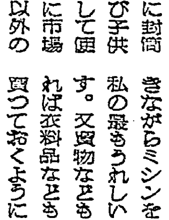
血迷つた會社の態度

労働基準法第十九条に「使用者は労働者が業務上負傷し又は疾病にかゝり療養のために休業する期間及びその後三十日間、並びに産前産後の女子が第六十五条の規定によつて休業する期間及びその後三十日間は解雇してはならない」とある。組合は今次の首切りが不当であり法違反も数々あると指摘して法廷闘争で勝ちとるべく進めていたが、会社は公傷者其の他の人々に「あの勧告は間違つていました。返して下さい」と現在勧告書を受取りに廻つている。いやしくも死活問題を左右する首切りを間違つていましたという会社の政策を世論に訴えるとともに、その埋合せ勧告がいつ誰に来るかを知り、断固首切り粉砕の為もう一段の強固な闘いを続けねばならない

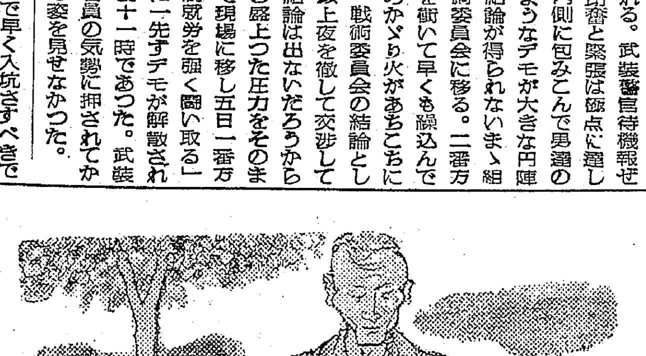
創作（入選三席）

小泉さんの死 （一）

芦河原讓作　久慈悠一画



十一月も半ばを過ぎ[illegible]に、昨日迄は小春日和[illegible]いた天候も、夕暮から[illegible]を明かすと、急に寒え[illegible]むき出しにしていた。[illegible]つて来る冷い風がひや[illegible]なでて行く。身が縮む[illegible]は市診療所の傍路から[illegible]迫え出た。最近自覚し[illegible]倦怠が自然惰性ともな[illegible]雨の間に家を出て傘も[illegible]かつた。みどりの街路[illegible]屋の赤い屋根も、小泉[illegible]覚にはどんよりと濁つ[illegible]色と同じく、やはり陰[illegible]に震えていた。首を縮[illegible]くしてとぼ／＼と歩く[illegible]ぼんやりとした視線を[illegible]逸つたまゝ、その手で[illegible]無意味とは知りつゝも[illegible]



情で受取つてきた薬袋を、中みでと引裂いていた。こぼれる白い粉末が露に絡んでズボンにズツクにこびりついて、八ツ裂きになつた紙片が掠める風にあおられて、あたふたと、濡れた広い舗道の上をすれ／＼に舞い、飛んで行つた。疾走して来たトラツクの容赦のない飛沫も知らぬ気で、やがて次第に弱く、小さくなつて行く音響に反して、今まさに消えようとしている。その生涯を炭と取組んできた一老坑夫小泉さんに、新たな観念を超えた感慨が湧いてくる。

妻に先立たれて二十余年、子供はなく、直ぐ貰い受けた養女は既ん世の中の裏まで臭覚を向けきつた一人の「女」と言える。それでいてまだ初潮も見ないという娘であつた。小泉さんはその時徴を良

以つて返した[illegible]

学歴を持たない小[illegible]での四十年近くの炭[illegible]特選工という名称[illegible]が与えられたに過ぎ[illegible]愈々停年退職時が近[illegible]からそうであつたよ[illegible]んは増々業務に忠実[illegible]でなく、傍に対して[illegible]とする範囲内での心[illegible]を必要とする誰彼の[illegible]つた。極端な篤志家[illegible]して三月前の八月、[illegible]の若さから親んでき[illegible]別れを告げたのだつ[illegible]

お断り

創作「裸おどり」は[illegible]より掲載を中止致し[illegible]

編[illegible]

ぽいんと

三鉱労組結成以来七年八ケ月、今度の首切り反対闘争程の盛り上りを今だかつて見たことがない。〃一波又一波と闘争の波は、昂り四日の返上デモに至つては建物ぐるみ本社をのみつくした観があつた。今度もまた川上所長[illegible]をくらまし、憤りに[illegible]の前にその姿をさら[illegible]つた。これだけの大量かく[illegible]めて一万前後を死地[illegible]山元における最高責[illegible]たしてこれでいゝか[illegible]とまれ、組合員は自[illegible]りと知つた。真に首[illegible]ばならぬものが誰で[illegible]含めて。我々は最後[illegible]い抜くであろう。

前進

奇怪な市の態度

八月三十一日吾々は首切完全撤回のため、三度目の総蹶起大会を開催し、歴史的な大動員と大デモを決行した。この成果は死の宣告にも等しい首切りに抗議する労働者の怒りと生きるための血の叫びを端的にさし示したものと云えよう。

× ×

今次の首切りは労働者のみの不幸でなく一般市民に及ぼす影響も甚大なので、大牟田全市民の問題として之を市民運動に盛り上げ大地評が主体となつて闘い、今でさえ失業都市と云われている大牟田にこれ以上首切りを出さないよう市に協力方を要請することになつた。

× ×

三染の首切闘争に市長の協力が足りなかつた、或は出張旅費稼ぎであつたなどの悪評が流布されたが、今次炭鉱の首切りは市の運命を決し、市民が共倒れするか否かの問題なので、市側の強力な協力を期待してこの折衝をつづけて来た。

たまたま三十一日の蹶起大会には大地評各単産の愛の紙吹雪を市役所屋上より散らし各単産の組合旗で迎え入れ、市の協力を要請する手筈であつた。

× ×

デモ隊が市庁に到着し、浦川副組合長が市長に面会を求めた處、この蹶起大会を事前に察知したのか市長は不在、大地評の幹部に対し山田助役は「諸君ビラを撒いては困る、赤旗を振つては困る」と労働者の盛上つた意氣を無視、会社の首切強行に賛同する様な奇怪な態度をとり小宮会長らを極度に憤慨させた。

× ×

昭和二十六年六月の市長選擧で大牟田の労働者大衆は誰を支持したか？田中忠藏氏こそ労働都市の市長にふさわしい人であるとして清き一票を行使し、その市長としての手腕と労働都市に於ける労働政策に期待をかけたが、その實績はどうであつたろうか？再軍備強行者、スト規制法賛成の張本人、三井獨占資本の走り小使、荒木代議士と一連の関係を結び完全に労働大衆の期待を裏切つたのは大牟田市長田中忠藏氏に他ならない。

× ×

吾々は責任をもつて推薦し、清き一票を行使した道義的な責任に於ても無能無策且権力にこび一方的な市政を司る事を止めない限りそのような市長に対しリコールの強權を發動し、眞に市の繁榮と全市民の幸福のため市政執行出來る人材を改めて選ぶであろう。そうする事こそが労働者、中小企業者の前進を意味するものであると確信する。

寫眞は市役所前を行くデモ隊

日・專・連　專　三池專門店会
秋
洋服なら
カッターなら
良品　K　正価
ヤクオーイン
大牟田・栄町五月通四　TEL2130・2331

味覚の秋　專
菓舗　城屋
大牟田市吉町　TEL2636

三池專門店会
呉服　洋反　服地
清水屋呉服店（きよみずや）
大牟田新銀座　TEL2256

大牟田は炭鑛と四山漬で知らる
農林大臣賞受領
西日本名産百選入選
大牟田名産　四ツ山漬
今村食品
大牟田市三川町　TEL6054・6330
小賣部　四ツ山県界　TEL6329
出張所　京町　TEL3923